

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立宮原中学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒836-0881
福岡県大牟田市米生町2丁目26番地
E-mail miyanohara-js@st.city.omuta.fukuoka.jp
Website _____
幼児児童生徒数 男子 141名 女子 143名 合計 284名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、学校教育目標「志を持ち自ら考え行動できる生徒の育成」をめざし、ESDを持続可能な社会を築く人づくりと捉え、ESDの視点に立った学習活動を通して学習課題を自分のことと捉え自ら考え行動を起こし課題を解決する力の育成を目標として実践に取り組んだ。

具体的には、3年間を通して総合的な学習の時間を中心に、『地域と共に生きる～福祉・世界遺産学習を軸に～』をテーマに、地域と密接に関わりながら①福祉に関わる学習、②世界遺産学習、③生き方に関わる学習を行った。

①福祉に関わる学習

第1学年では、大牟田特別支援学校との年4回の交流をととして、支援学校の生徒達との関わりを深め、共に助け合い、互いに尊重する心・思いやりの心を育てることができた。

第3学年では、地域の民生委員さんや公民館の方々と一緒に地域の独り暮らしの高齢者宅や認知症施設を訪問し、日頃の生活の様子を聞いたり手作りのプレゼントを渡したりして交流を深め地域の人々の温かさに触れることができた。

②世界遺産・地域遺産学習

地域遺産でもある世界遺産「宮原坑」を中心にESDカレンダーを作成し、世界遺産学習に取り組んだ。

第1学年では、地域遺産「宮原坑」を見学し、市の世界遺産推進室の方にGTとして解説していただき世界遺産について学んだ。

第2学年では、京都・奈良の修学旅行で多くの世界遺産に触れ、世界遺産の価値を学ぶことで、地域の世界遺産の価値を知ることができた。

第3学年では、地域のよさ、世界遺産の価値に気づきそれらを守り未来につなぐために、自分や地域の将来を創造し、明るく元気なまちにするために、自分達にできることは何かを考え行動した。

具体的な実践として、世界遺産「宮原坑」や大牟田の紹介リーフレットの英語版を作成・配布、『僕らの世界遺産写真展』を開催するなど、市内の各所や全国に広く発信した。地域の方々と協働で『笑顔いっぱい、花いっぱいプロジェクト』に取り組み、世界遺産「宮原坑」周辺にたくさんのひまわりの花を咲かせることができた。

③生き方に係わる学習

ESDの視点における学習をとおして、課題を解決する力、自己の生き方を考える力の育成を目標に、キャリア教育に取り組んだ。

第1学年では、職業調べや家族への職業インタビューをとおしていろいろな職業を知ることができ、働く家族や地域の方々に対して感謝の気持ちが育った。

第2学年では、職場体験をとおして、「働く」ことの大変さや喜びを体験することでその意義を学ぶことができた。

第3学年では、「世界一大きな授業」に参加し、学ぶことの大切さに気づき、自己を見つめ直し、将来を創造し自分の進路選択に取り組むことができた。



① 大牟田特別支援学校との交流の様子



② 世界遺産写真展開催を新聞掲載



③ 世界遺産「宮原坑」見学の様子



④ 職場体験の様子（手術室見学）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	■ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
■ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	■ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
■ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(ボランティア)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ 世界一大きな授業
- ・ 世界遺産学習 中学校版教材集（大牟田市教育委員会 ）
- ・ 奈良市教育委員会 世界遺産学習ウェブサイト

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

教育課程に持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）全体計画・年間指導計画、ＥＳＤカレンダーを作成し、全職員の共通理解のもと工夫して指導に取り組んだ。特に本年度の重点課題として、「つながり」をキーワードに、学校教育全体をととして、ＥＳＤの視点に立ち、身につけさせたい能力・態度を明確にし、アクティブラーニング型の指導の工夫に努めた。

特に全職員共通理解の元指導にあたることができるよう、単元ごとに学年で身につけさせたい能力・態度を確認し実践方法の工夫を話し合い取り組んだ。

- ③学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌に各学年より１名で組織する、ＥＳＤ推進部を設置し、ＥＳＤ・ユネスコスクール担当を位置づけた。総合的な学習の時間においては、３年間を通した学習計画において、発達段階を考慮して継続的、段階的に活動に取り組んだ。また、ＥＳＤカレンダーを作成し教科間の連携をはかるなどの工夫を行った。特に、地域との関わりが深い本校では、地域連携コーディネーターを配置し、地域と協働で取り組む活動を多く取り入れ、地域とのつながりを深め助け合いや支え合うことの大切さを学んだ。

- ④ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価（内部）は、教職員のアンケートから「ユネスコスクールの活動によって、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育てる指導がなされている」や「総合的な学習の時間は、ねらいを達成させる指導の工夫・改善がなされている」の値が、１学期と比べて０．４ポイント程度上がっていることなどから評価することができる。（外部）の評価は、学校関係者評価委員会を中心に年間２回の評価結果から、地域と学校が連携する取り組みにより地域と学校が身近に感じられるなどの意見が多く寄せられた。それによって、「持続可能な社会の担い手」として、生き方を学び合う子どもの育成カリキュラムを全職員で完成させ、共通実践をめざす必要がある。また、教育実践の評価表に基づく学校評価を行う必要がある。

⑤ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)
※チェック事項 2-2 に対応

各学習活動の成果をポスターや新聞にまとめ、校内に掲示し、他学年や保護者、地域に発信した。プロジェクトで作成した「大牟田の紹介」「宮原坑」のリーフレットは、市内の石炭産業科学館や、観光協会、世界遺産「宮原坑」に常時置かせていただき、配布物として見学の方々に配布した。また3年の「僕らの世界遺産写真展」を開催し、ユネスコスクール全国大会で公開展示し、市内の各所や観光協会等でも展示するなど、広く発信した。

広く地域や全国に発信したことで、地域や保護者の方々には本校の学習活動をより理解していただき、協働活動や生徒達への声かけを積極的におこなっていただけるようになり、生徒達も地域へのボランティア活動に積極的に参加するなど、地域との関わりやつながりが深まった。また、全国に発信したことで、全国のユネスコスクールの先生方と情報交流をする等つながりが広がった。

⑥学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

校区内の4つのまちづくり協議会とは、年間数回にわたり学校での会議を開催。また、各まちづくり協議会の定例会に出席し情報交換を行い、独居高齢者宅訪問など協働で活動に取り組んだ。特に本校は地域の方々のボランティアネットワークがあり、様々な学習活動にご協力いただいた。その他、「宮原坑」ボランティアガイド、大牟田市観光協会・プラザ、大牟田市役所世界遺産文化財室、石炭産業科学館、大牟田信用金庫等協働で取り組み、ゲストティーチャーとして活動にご協力いただいた。

⑦国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

国内のユネスコスクールの先生方と様々な情報交換を行った。特に本年度は、大牟田市での全国大会開催だったので、全国の交流のある先生方と集まり情報交換を密に行うことができた。

学校間の交流は、相手校の事情で、中止している状態である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

活動をすすめる中で、「自分にもできることがある」ことに気づき、「もっと〇〇したい」「こんなことをしたい」との思いが高まり、自ら進んで活動の企画運営に取り組んだり、地域のボランティア活動に積極的に取り組んだりするようになった。特に世界遺産学習活動での発信プロジェクトでは、リーフレットの英語版を作成する等、他教科の学習意欲も高まり学力向上にも繋がった。このような生徒達の変容に気づいた地域や保護者も、積極的に多くの協力をしていただくようになった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

「志を持ち自ら考え行動できる生徒の育成」を学校教育目標とし、SDGs の達成を目標に ESD の視点に立ち「つながり」をキーワードに総合的な学習の時間を中心に全教科で工夫して取り組む。

特に本校では SDGs 3・4・11・17 を重点的に、地域や校区内の 3 小学校、高校との連携を密に協働活動を取り入れ、取り組んでいく計画である。

【具体的な活動計画案】

第 1 学年：「地域の自然や歴史を学び合う」

世界遺産学習（地域遺産学習）・地域の環境・海洋学習・福祉学習（特別支援学校との交流・認知症学習）

第 2 学年：「人について学び合う」

働くことについて学ぶ（職場体験活動）・修学旅行

第 3 学年：「未来と自分について考え学び合う」

独り暮らし高齢者宅訪問・乳幼児との交流・キャリア教育